

2022年4月5日

学校関係者評価報告書

(2021年度)

群馬パース大学福祉専門学校
(学校関係者評価委員会)

※この報告書は、「自己評価報告書」に学校関係者
評価委員会の評価を追記してまとめたものである。

目 次

I 学校の現状	2
II 評価の基本方針	7
III 重点目標	8
IV 評価項目の達成及び取組状況	14
(1) 教育理念・目標	14
(2) 学校運営	15
(3) 教育活動	16
(4) 学修成果	19
(5) 学生支援	20
(6) 教育環境	23
(7) 学生の受け入れ募集	24
(8) 財務	26
(9) 法令等の遵守	27
(10) 社会貢献・地域貢献	28
(11) 国際交流	29
資料 1	32
資料 2	33
資料 3	34
資料 4	35

I 学校の現況 (2021年4月1日現在)

1 施設の概要

- (1) 名称 群馬パース大学福祉専門学校
- (2) 所在地 〒377-0008 群馬県渋川市渋川 1338-4
- (3) 設置者 名称 学校法人群馬パース大学
代表者 理事長 樋口 建介
所在地 群馬県渋川市渋川 1338-4
開設日 1992年4月1日
- (4) 教職員数 校長以下 20人
- (5) 開設学科 3学科
- ・ 介護福祉学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 保育学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 介護福祉専攻科 1年制 定員 30人
- (6) 在籍学生数(2021年4月1日現在)

	1年	2年	合計
介護福祉学科	46	45	91
保育学科	26	18	44
介護福祉専攻科	4		4
合計	76	63	139

- (7) 沿革
- ・ 1992年3月 ほたか保健福祉専門学校設置認可(群馬県)
 - ・ 2007年4月 群馬パース福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2010年4月 キャンパスを群馬県吾妻郡高山村に移転
 - ・ 2014年4月 群馬パース大学福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2017年4月 キャンパスを群馬県渋川市渋川に移転

2 建学の精神

Pazは、平和を意味するポルトガル語、パース(Paz)に由来する。

また、同時にPazにはこの3文字を頭文字とする「Pessoa(個性～個性の尊厳と自己の実現)」「Assistencia(互助～多様な人々の共存と協調)」「Zelo(熱意～知の創造)」の意味が与えられている。

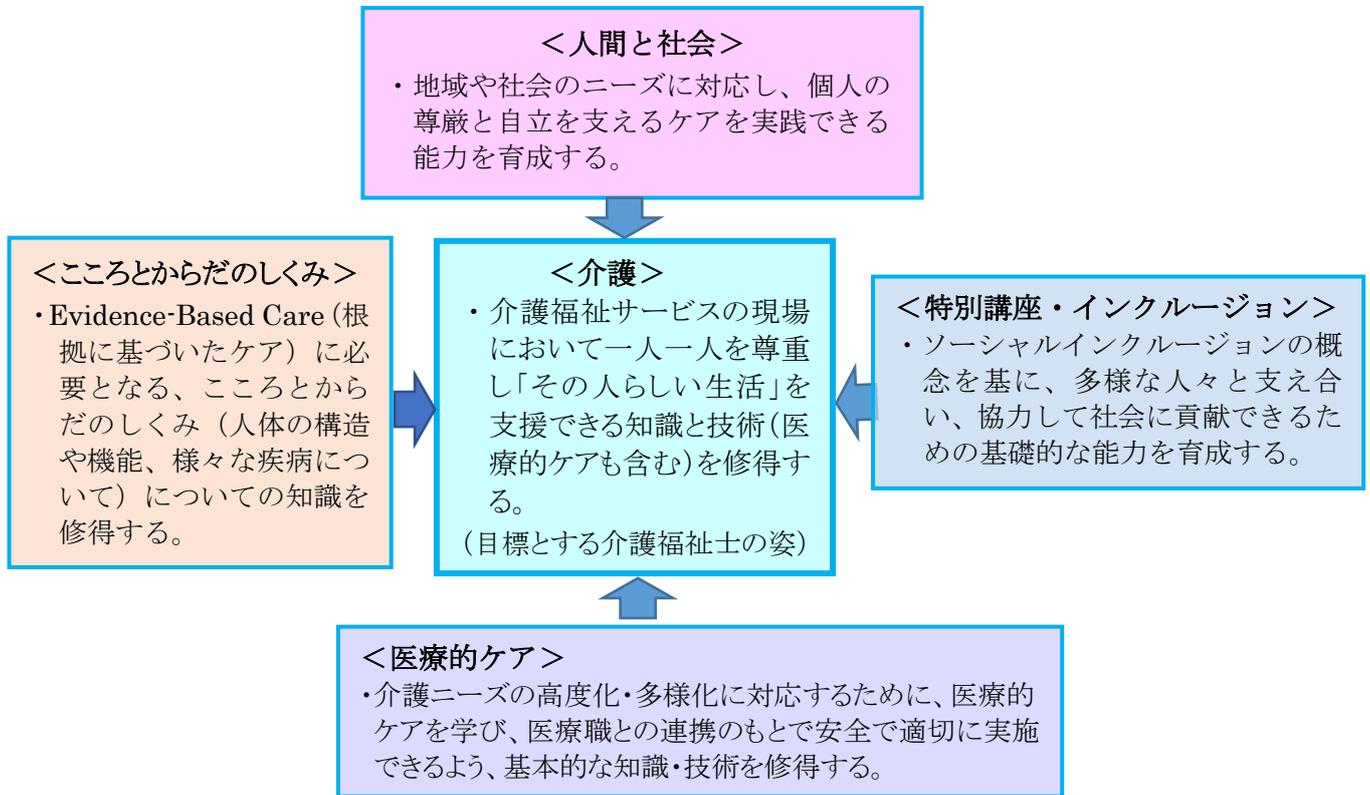
3 教育理念

「人間愛と人間尊重」を基盤にした豊かな人間性を養い、「生命への尊厳」に支えられた介護、保育の専門的知識や技能を身に付け、広く社会に貢献できる人材を育成する。

4 教育目標

【介護福祉学科・専攻科】

- 介護福祉学科のカリキュラムは5つの分野から成り立ちそれぞれ教育目標を定めている。5つの分野が独立しているのではなく、介護の分野が軸となり、他の4つの分野が補っている。



【保育学科】

- 子どもの思いに寄り添う感性を養い 個々の子どもの育ちを支える知識や技能を修得する。
- 一人一人の子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健の基本的な知識の修得と実践力を養う。
- 地域社会や家庭とよりよい関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。
- コミュニケーション力を高め協働する力を養う。

5 教育方針

各学科3つのポリシーで示す。

【介護福祉学科・専攻科】

《アドミッションポリシー》

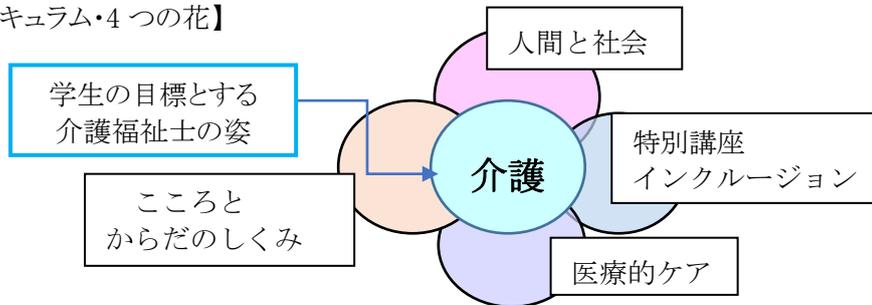
- 介護に関心を持ち、思いやりの心を持って相手を尊重することができる人
- 社会における介護の必要性を理解し、社会貢献・奉仕の心を持つ人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー（学生の目標とする介護福祉士の姿）達成に向けて

- (1)「介護」のねらいは、カリキュラムの4つの分野「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」「特別講座・インクルージョン」と連携し知識や技術を修得することで達成できる。各分野の教員が連携して指導に当たる。

【カリキュラム・4つの花】



- (2) 実習経験を積み重ねることで実践力を身に付けていけるように段階を追って目標を定め指導する。

- * 介護福祉学科 1年生カリキュラムマップ 資料1 参照
- 2年生カリキュラムマップ 資料2 参照
- * 介護福祉専攻科 カリキュラムマップ 資料3 参照

《ディプロマポリシー》

- 高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できる知識と技術を身に付けている。
- 介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

【保育学科】

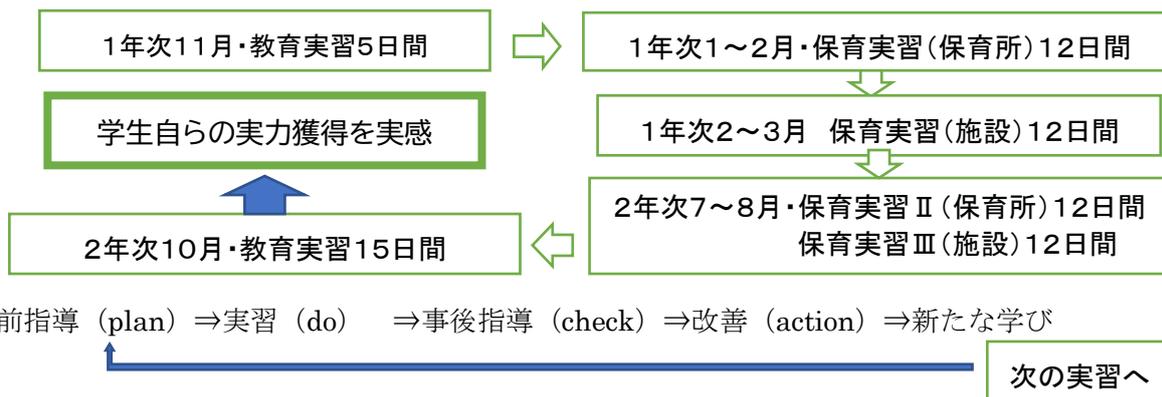
《アドミッションポリシー》

- 保育や幼児教育に関心を持ち、深い愛情を持って、子どもとコミュニケーションがとれる人
- 子どもの命を預かる責任感を持って、常に注意深く子どもを見られる人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー達成に向けて

- (1) 教育実習・保育実習を経てアクティブラーニング型授業での学習展開（『 』は、科目名）
- ① 2年間で5回の実習を経て段階を追って学びが深まり実力が付くように、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をする。
 - ② 実習においては、全ての学習の学びが関連しているが、特に、『保育実習指導』を基本に『保育実践演習』『保育キャリアデザイン』『特別講座』とも連携して実習の事前・事後指導を行う。
 - ③ 実習ごとにPDCAサイクルで学ぶ。



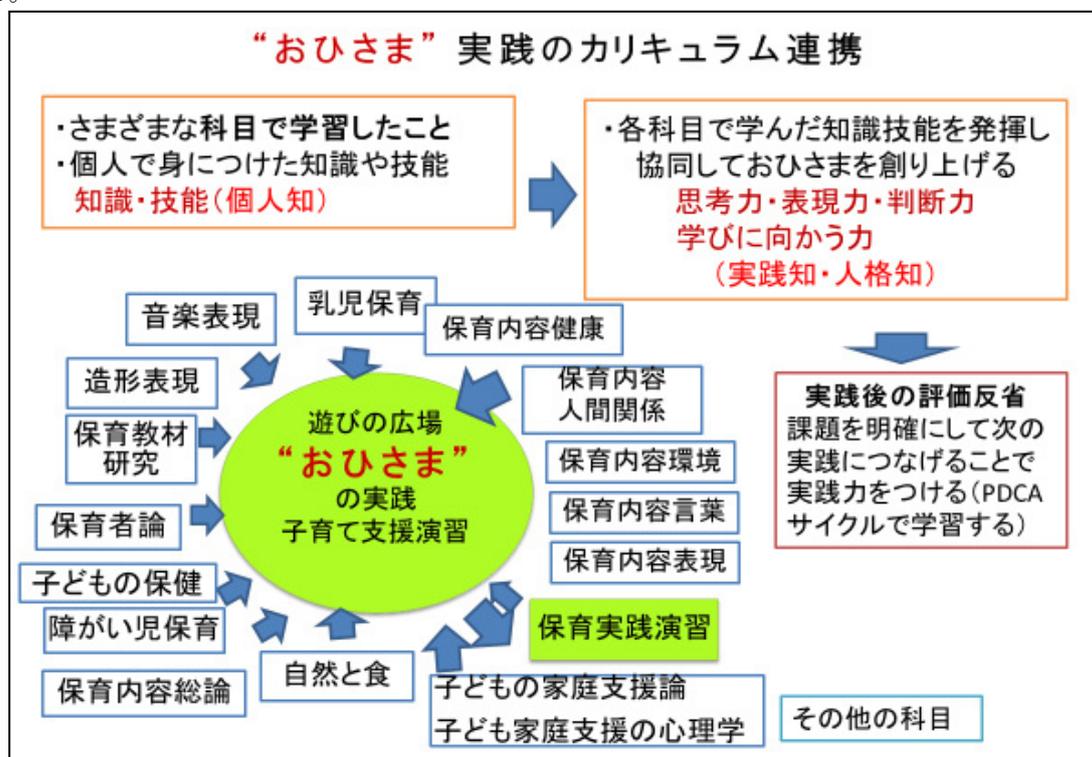
- ④ 実習前後の指導を全体指導と巡回指導担当教員による個別指導を組み合わせ、個々の学生の能力に応じた指導をする。
 ＊保育学科カリキュラムマップ 資料4 参照

(2) 『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』で取り組む「おひさま」を中心とした学習展開

併設する渋川市子育て支援総合センターと連携して、子育て支援事業・遊びの広場「おひさま」(以下、「おひさま」)を実践する中で、子どもとの関わり方や、読み聞かせ、手遊び、歌、劇の実演方法などの学習や、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助について学ぶと共に、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。そのため、『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』と連携した学習展開をすることを基本に、その他の科目での学習とそこで身に付けた知識や技能を發揮し協働して「おひさま」を創り上げる体験をする。

学生の習熟度に応じて学習が進められるように、『保育実践演習』と連携し、学生個人がPDCAサイクルで学び、実践力修得を確実なものにしていく。

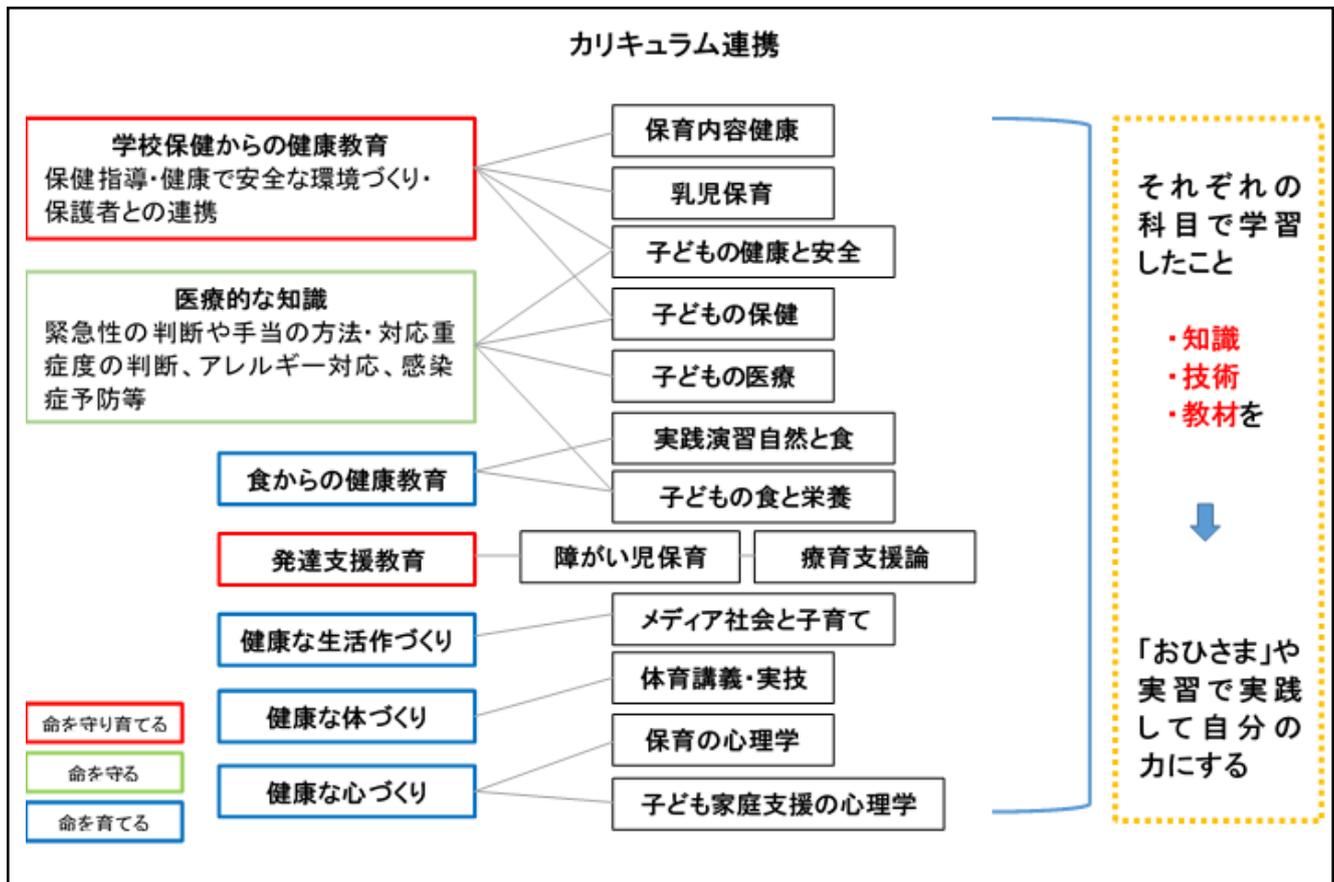
そこで、下図のようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の向上が実感できるような学習展開にする。



(3) 医療的な知識と学校保健活動の専門的な知識を学ぶためのカリキュラム連携

「子どもの命を守り育てる保育者を養成する」という目標のもとに、「命を守る」視点と「命を育てる」視点で、下図に示す科目の中で授業内容の検討と連携を試み、目標達成に向けての学習展開を考察していく。

なお、学生の実践の場としては、保育・教育実習、「おひさま」で、保健指導の実践(自作の教材・絵本や紙芝居などを使つての健康指導・食育)、身体諸機能の発達促進や安全感覚を養う運動遊びなどの実践をする。



《ディプロマポリシー》

- 子どもの生きる力を育むために、さまざまな子どもの思いに慈しみをもち寄り添い、個々の育ちを支える知識や技能を身に付けている。
- 一人一人の子どもの命を尊び、守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有している。
- 地域社会や家庭とより良い関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

II 評価の基本方針

群馬パース大学福祉専門学校は、「人間愛と人間尊重」「生命への尊厳」を基盤に専門的な知識・技能を修得し、介護や保育の現場で活躍できる福祉・保育のスペシャリストの養成を目指している。

また、自らの教育活動や学校運営について、自己点検評価を実施し情報公開すると共に、学校関係者評価委員の協力を得て教育活動のさらなる充実を目指している。

1 対象期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

2 実施方法

(1) 実施組織 教育活動推進担当（自己点検評価委員会）

○総括 神野 校長

○担当者 木村(校長補佐)、都丸(副校長)、古川(介護福祉学科教務主任)、深澤(介護福祉学科教員)、千田(介護福祉専攻科教務主任)、塩澤(保育学科教務主任)、井上(保育学科教員)、谷畑(事務主任)、廣橋(事務)

(2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する。

(3) 評価方法

教育活動推進担当者会議を開催し、昨年度からの課題を引き継ぎ、各学科・事務局・各分掌担当が自己点検評価を実施し取りまとめる。

3 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4 項目に対する評価

(1) 4段階で評価する。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 各評価項目で、特記すべき取り組み状況や課題・対策などを記載する。

Ⅲ 重点目標

【介護福祉学科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(資料1 資料2 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

1年次より『介護過程』の学習を通じて、他科目で学んだ知識を統合して利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援とは何かを導き出す思考過程を学んでいる。『生活支援技術演習』では、日常生活動作、生活関連動作の介助方法を自立支援という観点から、残存機能を活用した方法で学んでいる。2年次の介護実習では担当利用者を持ち、その方の生活課題は何か、必要な支援は何かということ、個別ケアと自立支援の観点から実習を展開している。

《成果と課題》

本年度は新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の影響のため、実習の延期や学内演習での振替えが生じた。2年生については、施設利用者の生活歴や疾患、本人の気持ちを情報収集し、生活課題は何かという介護を展開する思考過程を身に付け、ケアを行うための根拠を述べることができている。今後も「その人らしさ＝個別性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中でより具体的な事例を通じて個別ケアを理解できるよう授業を展開する必要がある。また、実習において目の前で起こっている問題のみに目を向けるのではなく、現在に至るまでの生き方・個性などを理解した上で生活課題を考え、生活を支えていく支援を展開できるようになることが課題である。1年生については、学内演習を通して、居宅サービスや施設サービスの特徴や利用者の生活の中での楽しみを支援する方法を学習できている。また、介護技術では基本的な実技だけでなく、現場を想定した応用的な実技も習得できた。進級後に初めての実習を控えており、2年生と同様に介護過程が課題だと考えられる。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は50時間である。本校はその3倍以上の165時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようカリキュラムになっている。

《成果と課題》

本年度は、COVID-19の影響がある中でも、演習時間は通常通り設けることができた。また、実地研修を受け入れて頂ける施設や病院を増やし、在学中により多くの学生が実地研修を修了できるように環境を整えた。

その結果、本校で定めている基準を満たした研修希望者 18 名(年度末在籍 2 年生 44 名中)が修了することができた。さらに、昨年度 COVID-19 の影響のため、実地研修に参加できなかった卒業生の中で、研修希望者 5 名(対象者 12 名中)も修了することができた。今後も、より多くの学生が実地研修を修了できるような環境を整えていくことが課題である。

【介護福祉専攻科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(カリキュラムマップ 資料 3 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

『介護過程』を通じて、保育士資格取得時に学んだ内容や経験、及び介護福祉専攻科として学んだ介護にかかわる知識も統合し、利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援とは何かを導き出す思考過程を学んでいる。『生活支援技術演習』では、日常生活動作、生活関連動作の介助方法を自立支援という観点から、残存機能を活用した方法で学んでいる。介護実習では担当利用者を持ち、その方の生活課題は何か、必要な支援は何かということ、個別ケアと自立支援の観点から実習を展開している。

《成果と課題》

本年度は、COVID-19 の影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置もあり、実習内容が当初の予定より変更となっている。感染予防及び人流抑制の観点から施設実習ができないと判断された際は学内演習に切り替えた。緊急事態宣言中や、まん延防止等重点措置中については、学内への登校も難しいためオンライン対応と課題で対応することで、必要時間数を確保することができた。そのようなこともあり、当初の予定よりも短い期間で行った介護過程の学びの中で、施設利用者の生活歴や疾患、本人の気持ちを情報収集し、生活課題は何かという介護を展開する思考過程を身に付け、ケアを行うための根拠を述べることが何とかできている。「その人らしさ＝個別性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中で事例を通じて個別ケアを理解できるよう授業を展開しているが、実際の介護現場を体験した経験がないことからイメージしにくい様子であった。これについては保育実習や保育園児に置き換え説明することで補完できた様子であった。また、実習において目の前で起こっている問題のみに目を向けるのではなく、現在に至るまでの生き方・個性などを理解した上で生活課題を考え、生活を支えていく支援を展開できるようになることも課題である。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は 50 時間であるが、介護福祉専攻科は 90 時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリ

キュラムになっている。

《成果と課題》

演習時間など、少数であることから気を抜くことなく学ぶことができています。医療的ケア実習については例年 2 月に予定しており、成績や技術習得について規定のラインをクリアしたものは実地研修に行く(今年度は、COVID-19 のため中止)。今後は、実地研修を受け入れて頂ける施設や病院を増やし、在学中により多くの学生が実地研修を修了できるような環境を整えていくことが課題である。

【保育学科重点目標】

(1) 子どもの生きる力を育むために、子どもの思いに寄り添い育ちを支える力を持つ保育者を養成する。

(2) 子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有する保育者を養成する。

2 年間という限られた修学期限の中で、上記のような重点目標を効果的に身に付けることができるようにするために、カリキュラムを検討し教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようにする。

そこで、昨年に引き続き、今年度においても目標達成に向けて次のような方策で取り組む。

1 重点目標(1)について

① 教育実習・保育実習の学習展開の工夫

《現状》

- a 講義・演習・実習の学習サイクルで実践力を身に付けるために、2 年間・5 回の教育・保育実習を有効にするカリキュラム連携や各教員の指導内容を工夫する。
- b 実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をするために、実習前後の指導を全体指導と巡回指導担当教員による個別の指導を組み合わせ、個々の学生の能力に応じた指導をする。特に、それぞれの実習終了後に、実習全体を振り返り学んだことを確認し、クラス発表を経て、各自が自分の実習を項目ごとに評価する。その後、個別に担当教員から実習先の評価を受け、自身の評価と比較して次の課題を明確にする。このサイクルで実習を重ねることにより、授業での学習意欲を高めつつ次の実習に課題を持って臨み、最後の教育実習では、子どもの思いを見取った保育の展開を理解し実践できるようにする。
- c 実習においては、今年度も COVID-19 感染拡大により、実習受け入れの中止や期間短縮、期間変更、実習先の変更などの影響を受けた。全員一斉に現場での実習中止とはせず、受け入れが可能な限り、現場で実習をするという方針をとった。受け入れ中止や短縮の学生については、学校にて代替授業(学内実習)を行うことで対応した。また、昨年度、保育実習 I (保育所)の学内実習対象者だった 3 名については、現場での経験の不足を補うために、感染状況が治まってきた時期に、渋川市の保育所へ依頼して体験学習(ボランティア)の機会を数日設けた。

《成果》

- a 学内実習では、子どもや利用者と直接かかわることはできないものの、学校において少人数でじっくりと演習や課題に取り組むことにより、個々の学生の知識理解や保育技術向上につながった側面はある。

- b 多くの授業で実習を見据えた教材作成や指導が行われ、授業で作成した教材を積極的に活用し、実習先で保育実践してくる学生が大幅に増加した。また、実習での経験やエピソードを実習後の授業で振り返り、学びにつなげる場面も多く見られた。これらのことは、授業と実習の連携が促進された証といえる。
- c 2年生の保育実習後、『実習指導』の授業の一環として実習の成果を報告書とポスターにまとめている。実習報告会では、2年生が昨年の先輩のポスター発表を見て学んだ経験を活かし、充実した発表を行うことができた。『実習指導』で取り組む1・2年合同の報告会は共に学び合う貴重な学習内容である。
- d 実習日誌に記載した学生各自のエピソード記録を『子ども理解と援助』の授業で取り上げ、子どもの思いの読み取りや保育者の援助について考察し、発表後、改めて教育要領をもとに学び直しをして、次の実習につなげることができた。

《課題》

- a COVID-19の影響により、実習受け入れがかなわない場合の対応が課題である。現場で実習できた学生と学内実習の学生との学びや体験の差について、どのように考えて補っていくか、また、学内実習の内容をどのように充実させていくか等について検討していく必要がある。また、実習延期により実習時期が変更になる場合、本校には「公欠」の扱いがないため、通常の授業との兼ね合いで、長期休業期間でない場合には実習先の受け入れ可能な提案期間での実習参加につなげられないという難しさが課題になっている。
- b 年5回の実習について各段階で最も重点となる実習目標を再検討し、その目標達成に向けて『実習指導』を中心に、関連する授業の中で、実習経験を取り込みながら学習内容を深めていく必要がある。

② 『保育・子育て支援演習』を中心とした学習展開

《現状》

保育学科では、渋川市(子育て支援総合センター)と連携し、「おひさま」を開設している。子育て支援の多様なニーズに対応できる保育者を養成することを目的に、『保育・子育て支援演習』で取り組み、他の科目では主に『保育実践演習』との連携で学習展開し3年が経過した。

学生にとって「おひさま」は、子どもが楽しんで過ごせる遊び場や、親子で楽しめる劇の実演などを通して、子どもとの関わり方や、読み聞かせ、手遊び、歌、劇の実演方法などを学ぶことが主な目的であるが、今年度はCOVID-19のため「おひさま」への参加が制限され、子どもとのかかわりが難しくなった。子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助ができなくなったことから、学生から遊びの提案をしたり、劇やペープサートで演じて楽しさを共感したりすることにとどまってしまった。そのような状況の中でも、この学習展開は、今保育の現場で最も必要な子ども理解と評価、育ちを繋ぐ保育実践についての実践的な学びとなっているため、『保育・子育て支援演習』だけではなく『保育実践演習』との連携で、学生個人がPDCAサイクルで学び、実践力を確実なものにしており、今年度もカリキュラムポリシーで示すようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の修得を実感できるような学習展開にしている。

《成果》

- a 「おひさま」は、5回開催の予定であったが、今年度も昨年に引き続き、COVID-19の影響により、実際の親子参加は3回のみとなった。従来、参加者の募集は年度初めに行い、全5回参加の予定が基本であったが、COVID-19禍において全ての回に参加する親子は少なく、単発での参加者を受け入れた。そのため、継続的

に子どもと関わっていく中で、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助について学習内容を深めることが難しかった。そこで、親子の参加が得られない回には、オープンキャンパスの参加者に対して取り組みを披露したり、学生のみで行いビデオ収録をしたりすることで学生自身の振り返りを行った。

- b このような状況下での学習成果は次のようなことである。
- ・収録したビデオを鑑賞することで客観的に振り返り、これまで以上に「伝わる表現・伝わる言葉」について考え工夫し実践した。特にマスクを身に付けた状態での表現の仕方についての気付きや工夫が見られた。
 - ・様々な授業での学びを遊びや親子との関わりに活かそうとする学生の姿勢が見受けられた。
 - ・子どもとの関わりができなかった分、学生同士が協力して「おひさま」を創り上げていく過程を「協働性を培う場」として、学生が自分を振り返りつつ、コミュニケーション力、計画立案と実践力、より良いものを創り上げていこうとする意欲等を修得できるような学習展開にした。特に、多くの学生にコミュニケーション力不足を感じていることから、自身を振り返ることとグループ討議を重ねることを重視した。結果、グループディスカッションが活発になり、協力して取り組もうと努力する姿勢やより良い教材を作ろうとする意欲が見られるようになった。
 - ・「おひさま」終了後の学生の感想には、グループ活動であったため、その過程で個々の学生の考えや思いのずれの違いでさまざまな課題が生じることが度々あったが、試行錯誤しつつ創り上げた結果、協働性を身に付けるための貴重な体験ができたとの記述が多くあった。
- c 子育て相談の実際に触れる機会がなかったため、『子育て支援』の授業においてロールプレイ形式で事例検討を重ね、相談援助の技術を学習した。
- d 子どもとのかかわりは、COVID-19 感染症対策について、養護教諭の指導を受け作成したマニュアルに沿って実践した。

《課題》

- a 次年度も遊びの広場「おひさま」を継続し「子どもとのかかわりの面白さ」「継続的に子どもとのかかわっていく中で、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助」について学習できるようにする。さらに「協働性を培う場」としてスキル向上の指導を進めていく。
- b 次年度の「おひさま」の開催についても今年度同様、渋川市子育て支援総合センターと連携しての子育て支援事業として定着しつつあるので COVID-19 感染の状況を見ながら、ネット配信も視野にいれ継続していく。
- c 学生に能力差があることを踏まえ、習熟度に応じて学習が進められるように授業の在り方を検討していく。

2 重点目標(2)について

《現状》

現代社会で高まっている健康教育は、幼児期から始まるとされ、この時期から、自らの体調に関心を持ち生活の仕方を見直せるような感性を育てていく必要がある。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、心身の健康に関する領域「健康」のねらいで、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」とあり、幼いうちから自らの健康に関心を持つことの重要性が示されている。

その健康教育を担う養護教諭の配置状況は、「学校基本調査」(令2 群馬県)によれば、公・私幼稚園で3%に留まっている。そのため保育所、認定こども園においては、保育の質の向上のため看護師需要が高くなってきている。認定こども園では養護職員として看護師等の配置をしている。

しかし、養護教諭と看護師の業務内容には異なる分野があり、保育・教育の現場では、医療的な知識だけでな

く、学校保健の専門性を有し、子どもや保護者への保健指導ができることが重要である。

学校保健の専門性とは、教育の視点から、子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心身の機能を高めていく健康教育を実践できることである。

このような現状から、本校では、群馬パース大学保健学科の専門教員や医療保育専門士の資格を有する教員の指導のもと、関連科目が連携し(カリキュラムポリシーを参照)小児医療の専門的な知識と保健指導が実践できる保育者養成に努めている。なお、学校保健活動の実際については、保育現場の養護教諭に依頼し、保健指導の知識や資料の活用方法、教材作り、保護者との連携などを学べるようにしている。

《成果》

- a 2年生の『実践演習こどもの医療』の授業で、保健指導の実際を学び教材作成をして保育実習・教育実習に臨み、現場の保育者からの評価を受けた。
- b 「おひさま」実践では昨年に引き続き、必ず保健指導のプログラムを入れ、COVID-19 対策の手洗い、虫歯予防のための食事や歯磨き習慣などの指導用教材を作成し実践した。そのことが学生同士の学び合いになり、保育現場での実践につながる内容となった。
- c 昨年に引き続き、『保育・教職実践演習』で群馬大学附属幼稚園の養護教諭から保健指導の実際、子どもが自らの健康生活を実践できるように様々な教材を使っての指導、子どもに伝わる話し方などを学んだ。さらに、緊急時やケガ発生時の保護者への対応についても学んだ。その後の授業で指導案作成に取り組んだことにより、保育現場で実践できる学習内容となった。
- d 2年生『保育の計画と評価』、1年生『実践演習自然と食Ⅰ』等で食育に関する指導案を作成、2年生『実践演習自然と食Ⅱ』で食育指導教材作成をして保育・教育実習に臨んだ。
- e 昨年に引き続き、2年生『療育支援論』で、群馬パース大学の理学療法士資格を有する教員や本校介護福祉学科の看護師資格を有する教員から、小児のリハビリテーション、医療的ケアについて学んだ。介護実習室で、喀痰吸引・経管栄養の体験を行うことで療育支援の具体的な学びに繋げることができた。

《課題》

- a 今年度の成果から次年度へ学習内容を継続する。さらに内容を深め、広げていけるように、「食からの健康教育」「健康な体づくり」等からの健康教育について学習し、教育・保育実習や「おひさま」で実践できるようにカリキュラム連携を図っていく。
- b 今年度より『子どもの保健』において、群馬パース大学保健学科の養護教育の専門性を有する教員からの受講が可能になったが、さらに目標達成に向けて連携を深め充実した教育を目指すため教員間の連携もさらに強化したい。
- c 様々な授業で学び、作成した教材を実習で実践できたことは成果であるが、実習で活かしきれっていない部分もあることから、今後は、教材を使用した際の子どもたちの反応等、エピソードとして記録することを提案したい。

IV 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
学校の理念・目的・育成人材像は定められている (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いている か	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・ 保護者等に周知されているか	4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 昨年度「専門学校設立の意図・建学の精神」についての総長講話をもとに、教育理念・教育目標・教育方針を見直し、これまで定められていなかった「専門士授与方針(ディプロマポリシー)」及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」を定めた。さらに、入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)の見直しをした。このことから、各学科で、本学が目指す職業教育の特色について再検討され、各教員が担当する教育面の一層の充実が図れた。本年度は、各教職員への方針等の浸透がさらに図られ、これらの方針に則り教育実践がなされた。
- b 建学の精神、教育目標、教育方針を学生便覧に記載し、アドミッションポリシーを入学試験要項に記載して保護者や学生への周知に努めている。また、建学の精神については、ホームページでも広く周知を図った。

② 課題と改善方策

- a 今後は、ホームページのリニューアル作業のため実施できなかった「教育の理念、教育目標、教育方針(3つのポリシー)」等のホームページへの掲載を早期に実施し、その周知に努める。
- b 年度初めのオリエンテーションや授業の中で、各教員が教育目標や教育方針(ポリシー)について取り上げ、学生に周知するようにする。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについて、昨年度新たに
見直し、定めたものであり、今後も周知に努めていただきたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 4月、「校務分掌」の見直しを実施した。これにより、教職員それぞれの職務内容と責任を明確にし、全教職員が引き続き、持てる力を発揮・協力して学校運営に当たれる体制の構築がなされた。
- b 6月、学校のホームページを通じて2020年度「学校関係者評価結果」を公表した。
- c 本年度も引き続き、COVID-19が広がる中ではあったが、学習内容や学校行事等を安易に中止とせず、出来ること(何が出来るのか)を考え実践する姿勢で学校運営に臨んだ。

② 課題と改善方策

- a 「校務分掌」に基づき、それぞれ担当者が小グループでミーティングを行っているが、課題やテーマによっては、担当者全員が参加しての協議に十分な時間が確保できない状況にある。そこで、事前に資料の回覧やメールでのやり取り、年度当初に会議日を設定するなど、引き続き、協議時間確保に一層の工夫が必要である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今年度もコロナ禍で、さらに学生や職員にも感染が及んだということであるが、感染症に対して学校を上げて適切な対応を取ってきたことは大いに評価できる。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1	

① 現状

- a 本校は、姉妹校である群馬パース大学と教育連携の強化を図り、医療的な知識の修得のために大学の教員から受講できるようカリキュラム編成を行っている。また、看護、介護、保育、教育等の現場で活躍している人材を講師として招聘し、知識や技術等を修得できるようにしている。
- b 学生による授業評価(授業評価アンケート)を教員の授業改善により良く活かす方法を再検討し、今年度から専任教員については反省評価の文書表記も併せて行った。今年度の反省を次に活かすことができるため、次

年度は、講師にも行っていただく予定である。

- c 成績評価・単位認定については、学生便覧やシラバスにも示されており、各担当の成績処理については各学科でも話し合わせ適切に行われている。また、進級・卒業判定についても学生便覧やシラバスに示され、進級・卒業の判定会議が開かれ、適切に対応している。
- d 教員は、関連分野からの講師依頼を積極的に受ける、学外研修へ参加するなどスキルアップ向上に努めている。また、講師を招聘して校内で職員の研修を実施し、教職員の資質向上に努めている。

【介護福祉学科】

- a 実技の授業では、PAZ グループの連携強化の一環として、グループ内の介護職員の方が学生に実技指導を行った。学生は、現場での支援状況や現場と学校での統一された実技を知ることができた。また、介護実習においては、昨年より多くの学生をグループ内の介護施設に受け入れていただいた。学内での演習、学外での実習を通じて本校では、グループ内の病院や介護施設等との連携による「現場と密着した介護教育」、「即戦力教育」の実践に努めている。
- b 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、医療的ケアの実地研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- c 本校独自の取組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を約 3 倍上回る時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。
- d 介護福祉学科では、国家試験合格に向けて 2 年生は、2 ヶ月に 1 度の頻度で模擬試験を実施し、苦手分野等を意識付けさせた。また、後期に入ると国家試験対策講座を設定し、勉強方法や重要ポイントを指導した。
- e 本校では近年、留学生の入学者数が増え、出身国も年齢も様々な学生と一緒に学んでいる。このような背景の中、学生に対して質の高い教育を提供するために、基本的な教員の知識やスキルを身に付けることを目的として新入職員研修を行った。

【介護福祉専攻科】

- a 保育士資格を有している者(保育士養成課程卒業生)が、1 年課程で介護福祉士取得を目指す学科であることから、時間割や実習などの年間スケジュールが忙しいものになっている。学生にかかるストレスや理解度にも影響があり、個人差もあるため、学生の個性に合わせた個別指導や助言に努めている。
- b 実技の授業では、PAZグループの連携強化の一環として、グループ内の介護職員の方が、学生に実技指導を行った。学生は、現場での支援状況や現場と学校での統一された実技を学ぶことができた。
- c 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、医療的ケアの実地研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- d 本校独自の取組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を上回る 90 時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。
- e 国家試験対策として、国家試験対策講座を設定し、12 月から個別指導に重点を置き、学力向上に努めた。

【保育学科】

- a 前述の「本年度の重点目標とその成果」に記載してある通り、保育者としての実践力を付けるためのカリキュラムや教育方法の工夫については学科内で常に検討を重ね改善に努めている。

- b 保育実習・教育実習後、それぞれ実習先の実習評価が基準点に満たない学生については、実習担当教員が、指導案立案と実践、ビデオ視聴から子ども理解と援助、ピアノ実技演習弾き歌い等の課題を中心に特別学習計画を組み、基準点に達するまで指導を繰り返して補完し、資格取得に向け指導している。
- c 『保育キャリアデザイン』『実習指導』の授業の一環として、現役の園長や保育者・施設職員をゲストスピーカーとして依頼し、将来保育者として必要なキャリア教育・実践的な職業教育について学習できるようにしている。
- d 保育現場との連携を大切に、本校の教員が近隣の園(主に教育実習園)の園内研修に継続参加し、そこでの研究成果を授業に活かす、実習の学習成果を現場に返すなど、現場との連携を深めつつ実践的な教育方法を追求している。

② 課題と改善方策

- a 留学生の成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準については、個々の学生の日本語の語学力(読み書き能力、読解力、レポートにする文章力、表現力など)の違いから、それぞれの基準点を明確にできない部分があり、今後検討する必要がある。
- b 職員の研修については、次年度は校内での研修を計画的に実施すると共に、外部の研修についてアンテナを高くして参加できるものについて積極的に参加するよう促す。また、来年度から校内で研究紀要を作成し、職員の資質向上の一助とする。

【介護福祉学科】

- a 介護技術習得のための授業では、より現場に近く現場と密着した技術及び知識を学生に伝えられるように、PAZグループの介護職員の方による実技指導の頻度を増やす必要がある。

【介護福祉専攻科】

- a 本年度、介護福祉士国家試験までに全ての授業を終えられるように時間割を設定したが、学生の負担も大きかった。来年度以降、国家試験に直接影響が出にくい科目などを国家試験後に設定するなど、学生への負担を少しでも軽減する工夫を行う。

【保育学科】

- a 例年、渋川市子育て支援センターと連携して『実践演習自然と食』『音楽表現と遊び』『造形表現と遊び』『保育の英語』等の授業実践を行っていた。しかし、昨年度よりCOVID-19の影響を受け行えない状況が続いているため、今年度は、感染対策を取りながら可能な部分については行っていきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・授業評価について、学生からの評価・意見を各教員が次の指導に生かすという点での良さはあるが、時に授業を行う教員側に向けての評価に偏りがちになってしまうこともある。授業評価アンケートを実施する際は、学生に実施の意図(学生の授業への取り組みも含めて、よりよい授業にするためにどうあるべきか)を周知させることが求められるだろう。授業改善は最重要課題である。しかし、学生の恣意的な評価によって先生方の意欲が削がれるようなことがあってはならない。

- ・コロナ禍で介護実習、保育実習、施設実習等に行けない学生も多く、遊びの広場「おひさま」もコロナ前のような実践ができないという状況ではあるが、今後も工夫して学生の実践力育成に努めていただきたい。各施設でも是非実習生を積極的に受け入れていただきたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

① 現状

- 2022年3月、介護福祉学科、保育学科及び介護福祉専攻科の卒業生については、就職を希望する学生は全員が就職をしている。就職率は、100%である。
- 2022年2月末までの退学・除籍者は、4人(介護福祉学科1年2人、2年1人、保育学科1年0人、2年生1人、介護福祉専攻科0人)であった。

参考:2020年度 9人(介護福祉学科1年5人、2年0人、保育学科1年3人、2年1人)

2019年度 17人(介護福祉学科1年10人、2年1人、保育学科1年6人、2年0人)

【介護福祉学科】

- 国家試験対策として模擬試験(学内・全国模試)を実施するなど、学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。(Ⅲ教育活動参照)
- 留学生への学習及び生活の支援を細やかに行った結果、退学率は減少している。
- 卒業生支援として、昨年度 COVID-19 の影響のため、実地研修に参加できなかった研修希望者5名(対象者12名中)も終了することができた。(Ⅲ重点目標参照)

【介護福祉専攻科】

- 国家試験対策として、模擬試験(学内、全国模試)、対策授業、個別指導を実施するなど学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。
- 就職活動においては、保育学科教員の協力を得て、保育分野への就職を希望する学生の指導を行っている。その結果、就職することができた。今後も連携を継続していきたい。
- 介護福祉専攻科への進学について、保育学科学生へ介護福祉専攻科を紹介する機会を設けている。

【保育学科】

- a 今年度の就職活動については、昨年度同様 COVID-19 の拡大予防の観点から、園見学やボランティア活動に制限が生じたが、昨年に引き続き県内の幼稚園・保育所・認定こども園・その他児童福祉施設等へ求人票の送付を依頼したため、求人は多く得られた。
- b 6～9 月に新卒の卒業生の就職先に、「採用御礼」として保育学科の教員が訪問し、職場適応の状況把握や現場からの声、卒業生の声を聴く機会としている。その状況を踏まえて、在学生の指導及び就職支援に反映させている。
- c 卒業生支援の観点から、本校で開催される公開講座への招待と卒業後の就労状況についてのアンケートを行った。
- d 卒業生のアンケート結果や卒業後の就労相談の内容をまとめ、2 年生『保育キャリアデザイン』の授業に活かしている。
- e 卒業生支援の一環として、相談日を設ける予定であったが、COVID-19 感染予防の観点から実施ができなかった。
- f 介護専攻科への進学支援の一環として、保育キャリアデザイン等の授業において専攻科の教員及び在学生、卒業生の協力を得て学びの特色等を紹介した。結果、介護福祉専攻科へ 5 名が進学をすることとなった。

② 課題と改善方策

- a 就職活動においては、社会的に介護福祉士・保育士が不足している状況にあるため、最終的な就職率はほぼ 100%である。しかし、学生自身の能力や希望に沿った就職をするためには、より早期から活動を促すとともに指導をする必要がある。そのためには、学生の資質や特性等に適した進路選択を早期から支援していく必要がある。
- b 退学率は低減しているが、学生が学びを継続できるよう引き続き、学習及び生活に関する指導が必要である。
- c 今年度も COVID-19 の影響を受け就職支援及び卒業生支援に制限が生じたが、次年度は状況を踏まえながら可能な範囲で実行する必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・退学・除籍者が大幅に減ったことは大いに評価できる。連絡手段（ラインの活用等）を駆使した指導を実践した先生方の努力の成果であり、今後も継続してご指導いただきたい。
- ・就職について、保育学科から公立保育所に正規採用になった現役生がいることは大変に喜ばしい。今後も続いていくことを願っている。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	

学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動(ボランティア等)に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか等	④	3	2	1	

① 現状

- a COVID-19 が広がる中での学生の健康管理については、校長のリーダーシップのもと、全教職員が連携・協力して次のような対策を講じている。
- ・ 玄関には、学生や来客者が校内に入る際、随時検温ができるように体表面温度計測サーマルカメラを設置した。
 - ・ 学生には毎日朝晩の体温と自覚症状の有無、同居者の発熱の有無、行動履歴を記録する健康チェックシートを準備した。また、登校してからは毎朝、養護教諭立会いの下、手指消毒を促し、教員による健康チェックシートの確認を実施し、学内に感染症を持ち込ませないよう努めた。
 - ・ 学生の緊急連絡先のリストを整備した。留学生については、母国の家族の連絡先と日本で確実に連絡のとれる連絡先を複数把握した。
 - ・ ワクチン接種については、介護施設でアルバイトをしている学生は 4 月から職域接種が始まり、7 月には群馬パース大学にて職域接種が行われ、全教職員と持病やアレルギーなどがないワクチン接種希望の全学生が接種することができた。3 月 4 日には 3 回目の集団接種を行った。
 - ・ 授業については、双方向型遠隔授業と対面授業を合わせたハイブリット型授業を実施した。基本的に全学生が登校するが、学生数の多いクラスは密を避けるために 1 クラスを 2 教室に分けて授業等を行い、体調不良や濃厚接触者等の疑いがある場合出席停止にする場合には、欠席者に向けハイブリット型授業での対応とした。
 - ・ 常に学生の生活圏の感染状況を把握しつつ、国や県からの指示、木村教授からの指導を受け、学生の予防意識が高まるよう対策内容を掲示している。日々、教員から注意を喚起し、昼食は場所を車内や教室を分ける

など密を避け、黙食の徹底のため職員が巡回するなどでき得る限りの対策を講じている。また、感染の疑いがある学生が出た場合には、マニュアルに従い聞き取り調査をし、木村教授の指導を受けながら、出席停止等の措置をとっている。(前年度より実施)

- ・ 留学生が発熱・体調不良を訴え COVID-19 の感染疑いで発熱外来等を受診する際には、状況に応じて初診料の全額補助を法人独自に実施している。
- ・ 今年度は、学校行事である新入生歓迎会と PAZ 祭を中止した。しかし、1 年生と 2 年生の交流の機会や思い出づくりの場として学科別での交流会を実施した。保育学科は 12 月、介護福祉学科と介護福祉専攻科は 3 月に実施(予定)し、日頃の学習成果を発揮しつつ、学生間の親睦を深めた。

b 個々の学生理解を深め健康状態等を確認しながら、丁寧で親身な教育の実践に努めるために、専門学校役職会議及び教務委員会で、教務主任等が学生の学業・生活状況を報告し教職員の情報共有を図っている。

c 急務である介護福祉士及び保育者の養成については、国、県、各種団体等による修学支援制度が多数整備されていることから、奨学金を必要とする学生に対しては、各種支援制度を紹介し、その申請手続きなどの支援を行っている。

なお、本年 8 月、高等教育の無償化に係る機関要件の更新確認がなされ、引き続き、「高等教育修学支援制度」の対象校に認定されている。

d 2020 年 4 月より学生寮「Paz Dormitory shibukawa」を学校に隣接する場所に設置している。10 部屋でバス・トイレ・キッチン・冷暖房完備の設備で、学生の利便性向上に寄与している。今年度は、寮生にとって住みやすく、規則が分かりやすい生活が送れるように、寮則の見直しや入寮と退寮の手引きを作成した。また、地域との良好な関係を築いていけるように、月 1 回程度の頻度で学校から学生寮周辺の清掃活動を実施した。

e 結核の早期発見・予防を図る観点から、全学生、教職員を対象にツベルクリン検査を実施している。なお、再検査等の指示を受けた学生に対しては、事務部と養護教諭が連携して再検査等のために適切な指導・助言を行っている。

f 2020 年 3 月 26 日付けで関東信越厚生局長から国民年金の「学生納付特例法人」の指定を受けたことから、学生の国民年金の申請等に対応している。

g 教員と保健室担当の養護教諭との連携強化のため、保健室と教室での対応が時系列で分かるような対応表準備している。情報共有が円滑になり、統一した対応が行いやすくなった。

h 進路・就職支援について、介護福祉学科では「特別講座(インクルージョン)」を中心に実施している。学生面談を行い、履歴書作成や作文指導等の個別対応を行った。また、「就職試験報告書」を作成し、在学生の就職活動に活用できるよう整備した。保育学科では、「保育キャリアデザイン」を核として進路・就職支援を実施している。そこでは、個別面談、履歴書作成指導、小論文指導、模擬面接、卒業生による講話等を行っている。また、「キャリアカウンセリングカルテ」については、学生の就職活動に対する相談内容や指導内容を教員全員が確認できるようにし、どの教員でも対応できるように活用している。

I 課題のある学生については、学科で対応の方向性を検討した上で、早期に保護者に連絡し、協議の上適切な対応ができるよう努めている。

j 学生の経済的負担を減らすため、資格取得申請時に必須である「卒業見込証明書」「卒業証明書」を無償で発行することとした。発行手続きも省略し、事務が申請時期を把握して随時発行できるようにした。尚、介護福祉士国家試験の受験については、受験者のみ発行手続きはするものの、同じく無償での発行とした。また、介護福祉学科では、前年度まで介護福祉士国家資格の新規登録(経過措置対象者)の手続きは、記入事項や

準備資料を説明した上で、個人で行っていた。しかし、留学生も多く在学しているため、今年度から学校で一括し、登録手続きができるように環境を整備した。

② 課題と改善方策

- a 留学生については、入学当初は、言葉の理解及び会話が難しい学生も多いため、個別面談の頻度を高め、年に複数回設ける必要がある。
- b 教員と養護教諭との連携に際し、プライバシーにかかわる内容については、その都度慎重に情報共有していく必要がある。
- c 学園祭については、2年連続で実施できなかったため、来年度は学園祭(PAZ 祭)を経験したことがない学生のみでの計画と実施となる。これまでの振り返りの伝達ができないため、準備の効率性や食中毒などの衛生管理、怪我や事故などのリスク管理などが課題となる。また、来年度は実施時期を10月から12月に変更することやCOVID-19などの感染対策を含めて、新たな学園祭のあり方を模索していく必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 関東信越厚生局長から国民年金の「学生納付特例法人」の指定を受け、国民年金の代理申請が学校でできるということであり、学生にはありがたい制度である。
- ・ 介護学科は教科書をすべて購入させるのではなく、あまり使わない科目はプリントを利用するなど工夫して教科書代を抑えていることは、学生支援の観点からとても良いことである。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a COVID-19 禍での危機管理体制マニュアルを構築した。感染予防の取り組みの実際は、(5) 学生支援の項に記載済みである。
- b オンライン授業のための環境整備(Web カメラの導入等)を引き続き行っている。
- c 6月、教職員の退職・採用等に伴う新年度の「防災体制」を確認するとともに、渋川市消防本部の指導の下、学生及び教職員を対象とした防災訓練を実施している。
- d 11月、渋川市消防本部の協力を得て、「地震体験車」等を使った災害対処訓練を実施している。特に、あまり地震が発生しない国からの留学生もいることから、極めて意義のある訓練(前年に続き、3回目)であった。
- e 学校と実習施設との関係は良好で、学生の指導に関する連携も図られている。海外研修については実施していない。

f 本年度より介護福祉専攻科の教室を2階 空き教室へと変更した。それに伴い、TV モニターや Wi-Fi 増設工事を実施し、授業環境を整えた。

② 課題と改善方策

- a 2019 年に設置したトレーニング用のジムコーナー(スペース)において、COVID-19 への感染予防としてフィジカルディスタンスを保つため、今年度は新たなトレーニング用器具は設置を控えた。今後の対応として、利用者のプライバシー確保かつ、COVID-19 に配慮するためパーテーション等の設置を検討していきたい。
- b 保育学科で所有しているノートパソコンを全学科で使用している。パソコンの使用の際、バッテリー等为了避免のため使用簿の作成・有効活用に努める。
- c 手遊びや劇など人に見せる技術を習得するため、見られ方を意識するための大きな鏡について、購入を検討している。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今後も施設、備品の充実等の課題に対しては、計画的な整備・改善に努められたい。

(7) 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 今年度は、COVID-19 感染予防対策を徹底し、例年通りの対面で 10 回のオープンキャンパスを実施し、その参加者は、のべ 108 人(介護 54 人、保育 54 人)であった。また、在校生とオープンキャンパス参加者との関わりを増やすことや、プログラム内容等に変化をつけることで、繰り返し参加して下さっている方を飽きさせないように展開することができた。
- b 今年度は、COVID-19 による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴い、オープンキャンパス参加者等に影響が強く出ていることから、急遽 12 月にオープンキャンパス、1 月に AO 入試を 1 回ずつ追加した。また、昨年度に続き、遠方(主に県外)からの受験者の利便性向上と COVID-19 対策を図るため、一部の入学試験にオンライン面接を継続している。
- c 期間中、各種広報媒体(インターネット、新聞広告)を活用した広報・募集活動を積極的に実施している。
- d 毎月高校訪問担当で打ち合わせを行い、毎月 1 回以上、各担当高校へ定期的に訪問することができた。また、事前にアポイントメントを取り訪問することや学科の教員と同行することで、訪問効果を高めることができた。
- e 令和 3 年度より、委託訓練生の教科書代を無償にして費用負担を減らすことで、社会人が入学しやすい状況

をつくっている。

- f 委託訓練公募開始とともに、群馬県全域のハローワークへ定期的に訪問し、広報活動を行った。また、近隣のハローワークが開催する委託訓練校説明会に参加したり、委託訓練について幅広く知ってもらえるよう県北、県央を中心としたチラシ広告を実施したりしている。
- g 保育学科では、入学後の学生生活の不安や疑問に答えるため例年入学前指導を実施している。今年度もCOVID-19対策を講じた上で実施した。入学前の個別面接、ピアノの技術力を高めるための個別レッスンなどは、入学後の安定した学生生活や学習に繋げるための重要な指導の場になっている。また、今年度より、オープンキャンパス参加者を対象としたピアノレッスンを導入した。参加者個人のペースに合わせた指導が高評価であった。
- h 子育て支援センターとの連携授業や特色ある授業展開は、ホームページで随時紹介している。
- i スマホ世代の高校生へのアプローチをこれまでより多く持てるよう、ホームページのリニューアル、SNSの更新頻度の向上などに努めた。
- j 留学生確保のため、全国の日本語学校140校に電話をし、新たに40校へ本校パンフレットと学生募集要項を送付し、本校の周知と学生確保に努めた。

② 課題と改善方策

少子化の影響も大きく、全学科とも高校からの現役生入学者が減少している。少ない福祉系進学希望者を各養成校がそれぞれ獲得しようと努力しているが各学校とも定員に満たない状況の中で、高校生に進学先として選ばれる魅力ある学校を目指す必要がある。また、高校生のみならず、社会人、外国人留学生、委託訓練生の募集方法なども工夫し、次のような改善策で募集に臨みたい。

- a 高校訪問は足しげく実施し、またオープンキャンパス案内チラシなどを活用し効果的に本校のことを知っていただけるように工夫していく。また、進路決定をする時期には、各科教員が高校訪問に同行する等継続して全体が協力、調整を行う。
- b 入学後、各科新1年生を対象に、入学を決めたきっかけなどの意識調査(アンケート)を行い、今後の学生募集、広報活動の参考としていく。
- c オープンキャンパスでは、これまでと同様「おひさま」見学を通して学習内容を理解してもらおうと共に、体験授業ではこれまで以上に、学生と教員が共に授業を創り上げていく様子を伝えるようにする。また、在校生と、オープンキャンパス参加者との交流や意見交換の場を増やす工夫を行うことで、学生の声を直に聴くことができる機会を増やす。
- d 出身高校ごとに学生を集め、写真やコメントを載せた募集チラシを作成し、高校訪問時持参することで、学生の近況報告を行う。COVID-19の感染状況によっては、学生本人に卒業高校へ持参してもらうことも検討する。
- e 各科の学生を対象に、高校生へ向けてのメッセージ動画を作成し、オープンキャンパスにて活用する。
- f 全国の日本語学校に、介護の進学先なら本校にと覚えていただけるよう、連絡を密に行い信頼関係をつくる。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今年度から、委託訓練生の教科書代を学校負担として、社会人の支援を強化しているところは高く評価したい。今後も社会人の学び、資格取得等の支援について配慮願いたい。

- ・若い人へのアピールには、SNS の活用が有効ではないか。例えば、介護職員や利用者さんの明るい表情等を動画で見ってもらうことにより、若い人に介護現場の魅力を伝えることができるのではないか。工夫を凝らした募集活動をお願いしたい。
- ・保育学科の入学者数減少の対策として、「保育士コース」を作り特色を打ち出すことは興味深い発想である。県内、保育関係の学科はどこも大変な状況であるので、今後知恵を出し、特色を出して是非頑張ってもらいたい。
- ・外部広報についても、高校だけでなく、社会人を対象として園や施設、企業などに向けて活動を展開していくことが求められるだろう。他の学校も同じような取り組みをしようと思うが、とにかく積極的に学生募集を行うことが必要。
- ・学生の活躍の状況や地域貢献等、学校のことが時々メディアに取り上げられているのは、大変良いことである。今後も学校の行事や活動については、積極的に取材依頼し、本校をアピールできると良い。
- ・コロナ禍で留学生が減少している中、群馬県のみならず全国の日本語学校に働き掛け、これまでと同様多くの留学生が入学していることは評価できる。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

① 現状

- 法人全体(大学、大学院、専門学校)の収容定員充足率が各年度 100%超で安定的に推移する中で学生生徒等納付金が十分に確保されており、経常収支差額比率をはじめとする各種の財務比率も概ね良好で、財務基盤は安定している。
- 予算の編成については、各部局毎(法人、大学、大学院、専門学校)に策定される次年度方針に基づき予算案が生まれ、3月開催の理事会・評議員会にて承認を受けている。また実際の予算執行時には起案書を作成・回覧し、改めて使用内容等の詳細について確認・検討を行うこととしている。
更に半期実績等に基づく補正予算を適宜編成している。
- 本法人の会計監査については、公認会計士による外部監査^{※1}、及び監事による学内監査^{※2}、から成っている。

※1 公認会計士による外部監査…加藤会計事務所による期中監査及び決算監査を受けている。監査契約書に定められている監査従事者の監査見積時間数は①監査責任者 50 時間、②公認会計士 90 時

間、③その他 80 時間…合計 220 時間となっている。

※2 監事による学内監査…「学校法人群馬パース大学 監事監査規程」に基づき作成された監査計画に沿った監査が行われている。2 名の監事は理事会及び評議員会への出席に加え、学校法人の管理運営を適正に行うため、理事会と教学間の意志疎通を図ることを目的として毎月 1 回開催される学園運営会議にも出席しており、学校法人の業務全般を状況把握した上で、期中・期末には決算等概要について、財務部及び公認会計士より概況聴取及び意見交換を実施している。

d 本法人の情報公開については、「学校法人群馬パース大学 情報公開規程」に則り、毎年度決算終了後、財務情報(財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書)及び監事による監査報告書をホームページ上に掲載するとともに、各事業所へ備えおき一般の閲覧に供している。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・学校法人の財務状況は、良好と認められる。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

① 現状

a 11 月、群馬県私学・子育て支援課(私学振興係)が実施する「専門学校管理運営調査」を受けたが、その結果は「指摘事項なし」「概ね適正」であった。引き続き、適正な管理運営に努める。

b 自己点検評価は、全教職員が分担して取り組んでいる。評価項目ごとに成果や課題を検討し、次の課題を明確にするなど学校全体の質の向上に努めている。

なお、6 月に、学校のホームページを通じて 2020 年度「自己評価報告書」を公表した。

c 学生及び教職員の個人情報に関する情報漏えい事故等は発生していないが、引き続き、「個人情報保護に関する規程」等に則り、その適正管理に努めている。

d 前年度から、非常勤講師に対して個人情報(特に学生に関する個人情報)の漏洩防止の徹底を図るために誓約書の提出を求めることとしているが、今年度も同様に実施した。

e 留学生の管理について、東京出入局在留管理局から「適正校」に選定(3 年連続 3 回目)された。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。引き続き、法令等の遵守に努める。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・群馬県（私学・子育て支援課 私学振興係）による管理運営調査において指摘事項がなかったということである。今後も法令等の遵守に努められたい。
- ・留学生の管理について、東京出入国在留監理局から3年連続適正校とされていることは、大変高く評価できる。今後も継続して努力を続けていきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

① 現状

- 春季～秋季の毎月末、学校行事として実施している環境美化活動では、学校敷地内の清掃のみならず、学校周辺道路等の清掃も行っている。また日本たばこ産業（JT）上信越支社との JR 渋川駅前・合同清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」を、今年度は2回（4月・10月）実施している。
- 渋川署との連携による、特殊詐欺被害防止・交通事故防止等を訴える啓発活動（注意喚起チラシやグッズの配布）を、JR 渋川駅前等で計3回実施している。
- 昨年度、「共生社会実現のまち 渋川市」の主旨・目的に賛同し、共同宣言に署名。今年度10月には共生社会推進月間に合わせて「第6回 日本のまんなか渋川・市長と語る会」が開催され、共生社会実現への取り組みについて意見交換を行った。また「共生社会実現のまち 渋川市」推進事業の一環としてのバリアフリーセミナー（DET研修）が、本校を会場として2月に開催されている。
- 渋川市「こども安全協力の家」に登録し、子どもが身の危険を感じたときや急病等で助けを求めたいときに保護や世話をしてもらえる場所として、子どもの安全・安心確保のための一翼を担っている。
- 本校に届くボランティア募集等の情報は担当者が随時受付し、学生が自由に閲覧・申込できるよう掲示板への貼付と就職相談室への配架を実施している。また実習・就職実績がある施設等からの案件については、必要に応じて教員より学生へ個別に声掛けも行っている。
- 群馬パース大学と連携し「発達障がいの療育」をテーマにした公開講座も今年で4年（回）目を迎え、2月開催の今回分については本校への来場参加だけでなく、オンライン視聴も可能な体制を整え実施している。
- 介護福祉学科および介護福祉専攻科では、群馬県内の小中学生対象に「介護福祉出張教室（※）」を実施。依頼のあった学校へ本校教員が赴き、高齢者体験・車椅子体験等の講座を開催している。また福祉系高等学

校の授業内で開講される介護職員初任者研修へ、本校教員を講師として派遣している。

(※)群馬県介護高齢課および群馬県介護福祉士養成校協議会が連携し、介護を正しく理解してもらうための企画の1つ。

- h (学外の)介護従事者向けスキルアップ研修(喀痰吸引等研修、実習指導者研修)や介護福祉士になるための基礎的な知識・技術を学ぶ研修(実務者研修)を開講している。
- i 保育学科では、群馬県総合教育センター・幼児教育センター事業の「保育アドバイザー」に委嘱された本校教員が、幼児教育等に携わる方を対象とした各種研修会等に講師として派遣されている。また「幼稚園等新規採用教育研修指導員」に委嘱された本校教員が、直接園に赴いて指導にあたっている。
- j 保育学科では、群馬県社会福祉協議会からの依頼を受け、県内の保育士を対象とした「群馬県教育・保育のキャリアアップ研修」の講師に本校教員5名を派遣している。本年度はeラーニングとして2回実施し、400名の受講があった。
- k 群馬県の公共職業訓練(ハロートレーニング)・受託校として、①介護福祉士コース ②介護福祉士専攻コース ③保育士コースを開講し、今年度はそれぞれ①11名 ②1名 ③10名の訓練生を受け入れている。
- l その他、将来渋川市のために貢献しようとする有意な人材の大学等への進学を奨励・支援することを目的とした「ふるさと渋川学生奨励金」制度へ本校の学生2名が応募し、2名とも選考されている。

本校の教職員および学生による、その他の社会貢献・地域貢献については、別添資料4「2021年度 主な地域貢献活動一覧」を参照のこと。

② 課題と改善方策

引き続き、積極的に社会貢献・地域貢献活動に取り組んでいきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・コロナ禍で減っているとはいえ、年間61件もの実績があるということは大変素晴らしいことであると思う。このことはもっとアピールした方が良い。
- ・大学と連携した2月の公開講座の他、専門学校単独で公開講座を計画しているというが、大変良いことである。今後も積極的に地域に開かれた学校として活動をしていただきたい。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1	

① 現状

- a 本年度で留学生の受入れは 5 年目を迎えるが、一定程度の留学生を確保するために、県内・県外の日本語学校(複数校)に赴き、本校の学習内容や介護業務に対する理解を深め齟齬をなくすための説明会を実施した。しかしながら、COVID-19 のため県外の日本語学校での説明会の実施が計画通りできなかったことから、本年度から「オンライン説明会」を実施し、県内の留学生には本校で個別に説明会を随時行った。在学中の留学生がそれぞれの母国語で学校説明を行った動画を活用し、募集活動に役立てた。
- b COVID-19 流行により、前年度同様、県外の学生や要望があった学生については、「オンライン入試(面接)」も実施している。日本語能力だけでなく、日本語学校での出席率、人物、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断した入試選考を引き続き行っている。
- c 留学生が退学・除籍した場合はこれまで通り、法令の規定に基づき、東京出入国在留管理局に対して遅滞なく報告している。在学中の在留資格更新・資格外活動申請や卒業後の在留資格変更のための書類の指導も行っており、全員介護ビザに繋げている。
- d 留学生に対する学習・生活及び日本語指導については、留学生対応の専任教員(一名)を中心に全職員が連携して、一人一人の学生に対し、きめ細かな指導に努めている。本校が日本語能力試験の団体申し込みの窓口業務を行い、年2回の受験を留学生に勧め日本語能力向上を図っている。
- e 留学生の連絡ツールは、主に LINE を活用している。円滑に連絡がとれるように、各学科の公式 LINE を活用し、情報共有を図っている。また、在学中、卒業後の留学生からの相談にも随時応じており、本年度は結婚に伴う配偶者の在留資格申請や、妊娠・出産に関する手続きを指導した。それにより、家族の在留資格を取得し、安心して仕事を続け、日本での生活が送れている。
- f 日本年金機構と「学生納付特例申請」の代行事務契約を結び、留学生の年金手続きを一括で行っている。また、学生向けに日本の年金制度の仕組みについて渋川年金事務所による説明会を開催し、齟齬が起きないように指導している。国民健康保険の加入の確認を行い、未加入の学生には強く加入を促している。支払いが難しい場合には、各市役所の国民健康保険窓口にご相談し、分納などをお願いし、加入・支払いに繋げている。体調の変化にも注意を払い、症状がある場合には医療機関等へ繋ぐなど管理の徹底に努めている。
- g 介護福祉士の登録手続きのきめ細かな指導と、卒業後の登録確認をすることによって、留学生が介護福祉士として働けるよう継続的なサポートを行っている。
- h COVID-19 の世界的な流行により、留学生が一時帰国する際には、学校内でヒアリングを行った後、アルバイト先に状況を伝え、留学生・学校・アルバイト先の情報共有を行った。帰国に関しての問題点を明らかにすると共に、齟齬がないよう努めている。
- i テレビを持たない留学生が多いので、COVID-19 の新しい情報を常に共有すると共に、感染防止について分かりやすく注意喚起を行っている。
- j SDG's のフードロス・貧困対策の点から、本年度から本校が渋川フードバンクから食料を一括預かり、生活に困窮している学生へ配布を行っている。

②課題と改善方策

- a 留学生は、日本語学校を卒業後本校に入学しているが、語学力で個人差があることや専門用語について理解が十分でない学生もいる。しかしながら、日本語指導の時間を確保することも難しく、現在は実施が出来ていない。今後は、在学時に個々の目標の日本語能力試験合格を目指し、専任教員を中心にしっかりとサポート

していきたい

- b ビザの変更・更新は、現在留学生本人が東京出入国在留管理局 高崎出張所にて手続きを行っている。COVID-19 の状況も考慮し、学校がビザの更新・変更を代行できる許可を得た。2022 年度の入学生・進級生から随時オンラインで手続きを行う。また、東京出入国在留管理局に対し留学生の退学・除籍の報告も 2022 年度よりオンライン申請で行う。

③特記事項

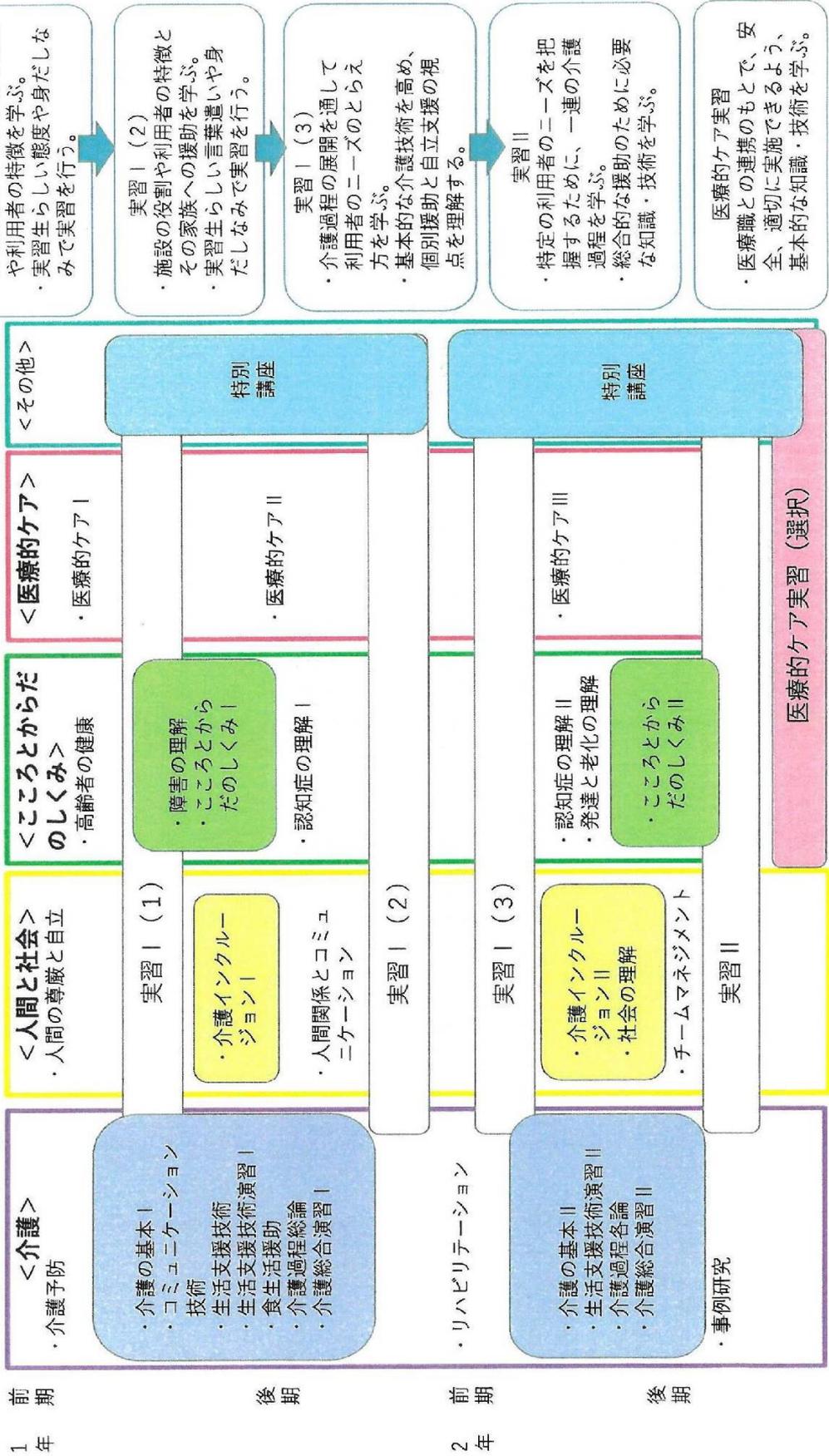
本校では、外国人留学生の受け入れを始めるに当たり、「群馬パース大学福祉専門学校外国人留学生規程」(平成 27 年 4 月 1 日施行)を設定し、必要な事項を定めている。

④ 学校関係者評価委員会による評価

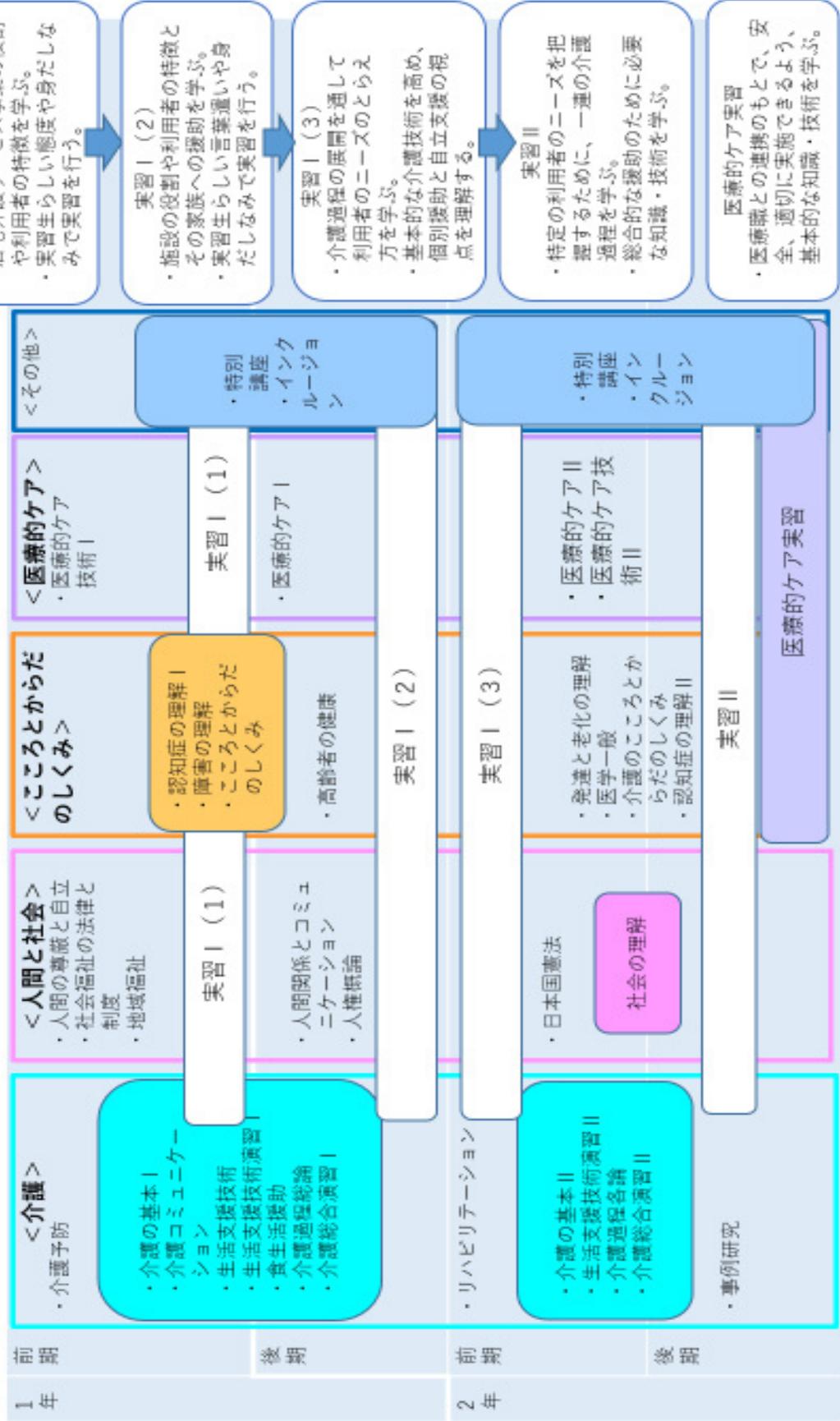
- ・留学生について、卒業後の結婚や出産までサポートをしているというが、これは学校の良い評価として繋がっていくと思う。施設側でも留学生の対応については一つ一つ勉強。学校と施設が連携して対応していけると良い。
- ・職員が「入管協会」の研修会を受講し、学校からオンラインで入管の手続きが出来るようになったとのこと。入管での手続きのために、今までであれば一日アルバイトを休まなくてはならないことも多く、準備や手続きも大変だった。学生にとって大変ありがたいことだと思う。学校側は負担であるとは思いますが、今後もさらなるご尽力をお願いしたい。

資料 1

令和3年度 介護福祉学科カリキュラムマップ

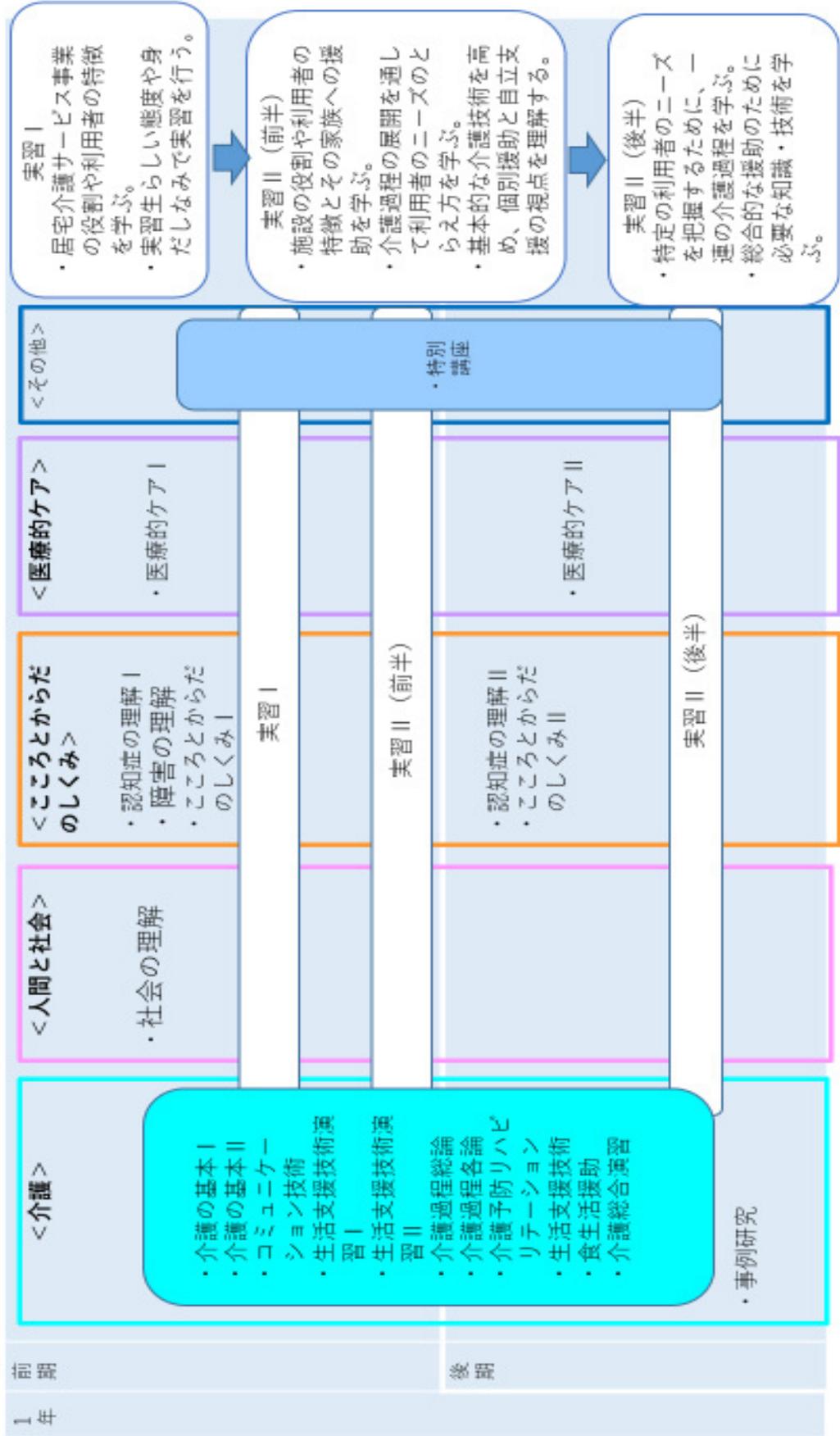


介護福祉学科カリキュラムマップ



資料3

介護福祉専攻科カリキュラムマップ



資料4

保育学科カリキュラムマップ

学年	小田原短期大学		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	総合演習	教養科目	その他	実習指導		実習		
	小田原	PAZとの必修							PAZ	小田原	PAZ	小田原	
1年	前期	健康 人間関係 表現(音楽) 教育制度論	保育原理 社会福祉 社会的養護 I	保育の心理学 子どもの保健	保育内容健康 保育内容人間関係 音楽表現と遊び I 言語表現と遊び 乳児保育 I 子どもの健康と安全 障がい児保育 I 保育のためのピア学習 I		保育の英語 I		保育実習指導 I (施設)	保育実習指導 I (保育所)	保育実習 I (保育所)	保育実習 I (施設)	小田原
	通年	環境 情報処理論	保育原理 社会福祉 社会的養護 I		保育内容環境 身体表現と遊び 保育・子育て支援演習 I 実践演習自然と食 I			特別講座 I					
	後期	言葉 音楽表現 II 造形表現 II 身体表現 II 表現(造形) 特別支援教育・保育職論 教育の方法と技術 おだたん人間成長講座	教育原理 子ども家庭福祉 保育者論	子どもの理解と援助	保育内容言葉 保育内容表現 造形表現と遊び 音楽表現と遊び II 音楽教材研究 I 保育のためのピア学習 II			保育の英語 II 保育キャリアデザイン I 日本国憲法					
2年	前期	幼児理論の理論と方法 教育相談	健康・スポーツ理論 保育カリキュラム論 保育内容総論 乳児保育 II 健康指導法	子どもの食と栄養 I 実践演習こどもの医療 I	保育の計画と評価 保育内容総論 乳児保育 II 社会的養護 II 保育教材研究 II 保育のためのピア学習 III		体育講義 メディア社会と子育て 保育キャリアデザイン II		保育実習指導 II	保育実習指導 III	保育実習 II	保育実習 III	
	通年		子ども家庭支援論 保育実践支援演習(必修)	子ども家庭支援の心理学 子どもの食と栄養 I 子どもの医療 II 療育支援論	保育・子育て支援演習 II 実践演習自然と食 II 障がい児保育 II 子育て支援 保育のためのピア学習 IV	保育実践演習		特別講座 II					
	後期		子ども家庭支援論 保育実践支援演習(必修) 表現指導法 人間関係指導法										保育実習 (後期)

学校関係者評価委員名簿

	氏名	役職	所属	分類
1	塩崎 猛雄	委員長	群馬パース大学福祉専門学校 非常勤講師	教育に関し知見を 有する者
2	笛木 陽介	副委員長	(株) ヴィラージュ ヴィラージュ尾瀬保健部次長	関連業界等関係者 (介護)
3	長塩 香子	委員	渋川市立渋川幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
4	河田 功一	委員	社会福祉法人 永光会 特別養護老人ホーム永光荘事務長	関連業界等関係者 (介護)
5	蜂須賀 和夫	委員	幼保連携型認定こども園 国分寺幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
6	飯塚 翔	委員	医療法人社団ほたか会 群馬パース病院 介護主任	卒業生 (同窓会長)

2021年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
1	保育学科	都丸千寿子	2021/4/2	金	講師派遣	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	幼稚園・こども園等新規採用教員179名	群馬県総合教育センター
2	保育学科	小林由井子	2021/5/19	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
3	保育学科	小林由井子	2021/5/20	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
4	保育学科	都丸千寿子	2021/5/28	金	情報交換会	前橋市幼児教育アドバイザー情報交換会	前橋市	前橋市幼児教育センター	委員17名	リモート(本校)
5	保育学科	小林由井子	2021/6/4	金	情報交換	渋川市福祉部こども課子ども・子育て会議	渋川市	こどもか少子対策係	少子化2名	群馬パース専門学校
6	保育学科	井上 暁子	2021/6/9	水	講師派遣	渋川市ファミリーサポートセンター24時間研修	しぶかわファミリーサポートセンター	しぶかわファミリーサポートセンター	まかせて会員20名	渋川市子育て支援総合センター
7	保育学科	小林由井子	2021/6/10	木	学校評議員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員4名園長他	こもち幼稚園
8	保育学科	小林由井子	2021/6/14	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
9	保育学科	小林由井子	2021/6/15	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
10	介護福祉学科	高草木めぐ美	2021/6/18	金	講師派遣	高校生向けの介護初任者研修	青翠高校	青翠高校	高校生20人	青翠高校内
11	保育学科	小林由井子	2021/6/21	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回(eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
12	校長	校長	2021/6/22	火	審議会委員活動	群馬県青少年健全育成活動審議会	群馬県	児童福祉・青少年課	書面審議	
13	保育学科	井上 暁子	2021/6/24	木	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回(eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
14	保育学科	井上 暁子	2021/6/26	土	講師派遣	群馬県総合教育センター研修講座	藤岡市の保育者子育て支援関係者	藤岡市健康福祉部こども課	20名	藤岡市総合学習センター

2021年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
15	保育学科	都丸千寿子	2021/6/29	火	学校評議員会	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名、園長他	北橋幼稚園
16	保育学科	剣持佐智子	2021/6/29	火	講師派遣	渋川市ファミリーサポートセンター24時間研修	しぶかわファミリーサポートセンター	しぶかわファミリーサポートセンター	まかせて会員16名	渋川市子育て支援総合センター
17	保育学科	井上 暁子	2021/7/8	水	講師派遣	桐生市学校教育推進委員会幼児教育部会講演会	桐生市公立幼稚園の教員	桐生市立幼稚園幼児教育部会	15名	桐生市立東幼稚園
18	保育学科	都丸千寿子	2021/7/12	月	講師派遣	園内研修	群大附属幼稚園教員	群馬大学教育学部附属幼稚園	教員1人	群馬大学教育学部附属幼稚園
19	保育学科	小林由井子	2021/7/13	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
20	保育学科	小林由井子	2021/7/15	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
21	保育学科	剣持佐智子	2021/7/19	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回 (eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
22	保育学科	都丸千寿子	2021/7/28	水	講師派遣	桐生市教職員研修会	桐生市幼保小教育保育関係教員	桐生市教育委員会	保育士・幼小教諭約40人	桐生市文化会館
23	校長	校長	2021/8/19	木	評価委員会活動	ぐんまこどもの国児童館指定管理者評価委員会	群馬県	私学・子育て支援課	委員5名	こどもの国児童館
24	介護福祉学科	増田 麗子	2021/8/31	火	講師来校	渋川年金事務所 年金についての講義	介護福祉学科2年生	渋川年金事務所 大竹様		群馬バース大学福祉専門学校
25	保育学科	小林由井子	2021/8/31	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
26	保育学科	小林由井子	2021/9/2	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
27	保育学科	小林由井子	2021/9/14	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
28	保育学科	小林由井子	2021/9/15	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園

2021年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
29	保育学科	小林由井子	2021/10/6	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
30	保育学科	小林由井子	2021/10/7	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
31	保育学科	塩澤恵美	2021/10/9	土	資料提供	青少年育成推進員連絡協議会研修	青少年育成推進員	利根教育事務所	新型コロナウイルス感染症により研修は中止。 資料のみ提供。	
32	保育学科	井上 暁子	2021/10/12	水	講師派遣	群馬県総合教育センター研修講座 (園内研修)	こもち幼稚園教員	渋川市立こもち幼稚園	11名	渋川市立こもち幼稚園
33	保育学科	小林由井子	2021/10/18	金	こども・子育て会議	渋川市福祉部こども課少子係	渋川市	こども課	25名・市職員5名	渋川市役所会議室
34	校長	校長	2021/10/19	火	会合出席	渋川市長と語る会 ～ 共生社会の推進関係	渋川市	秘書政策係	市長と団体関係者	渋川市庁舎
35	保育学科	都丸千寿子	2021/10/21	木	講師派遣	高崎市保幼小連絡協議会研修会	高崎市幼児教育・小学校教育関係者	高崎市教育委員会	教員・保育士約170名	高崎市役所 (YouTube配信)
36	保育学科	都丸千寿子	2021/10/26	火	講師派遣	園内研修	群大附属幼稚園教員	群馬大学教育学部附属幼稚園	教員1人	群馬大学教育学部附属幼稚園
37	保育学科	都丸千寿子	2021/11/6	土	講師派遣	群馬大学教育学部附属幼稚園公開研究会	全国幼児教育関係者	群大附属幼稚園	20名	群大附属幼稚園 (ZOOM)
38	保育学科	小林由井子	2021/11/10	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	渋川市市立北橋幼稚園
39	保育学科	小林由井子	2021/11/7	木	新任指導員	新任指導員	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
40	介護福祉学科	深澤みはる	2021/11/10	水	講師派遣	高校生向けの介護初任者研修	青翠高校	青翠高校	高校生20人	青翠高校内
41	保育学科	都丸千寿子	2021/11/11	木	学校評議員会	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名、園長他	北橋幼稚園
42	介護福祉学科	千田 仁	2021/11/15	月	講師派遣	介護出張教室	片品小学校	片品小学校	学生85名	片品小学校内

2021年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
43	介護福祉学科	深澤みはる	2021/11/24	水	講師派遣	高校生向けの介護初任者研修	青翠高校	青翠高校	高校生20人	青翠高校内
44	介護福祉学科	深澤みはる	2021/11/30	火	講師派遣	高校生向けの介護初任者研修	青翠高校	青翠高校	高校生20人	青翠高校内
45	保育学科	小林由井子	2021/12/2	木	学校評議員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議委員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員4名、園長他	こもち幼稚園
46	保育学科	小林由井子	2021/12/8	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	北橋幼稚園
47	保育学科	小林由井子	2021/12/9	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
48	介護福祉学科	深澤みはる	2021/12/14	火	講師派遣	高校生向けの介護初任者研修	青翠高校	青翠高校	高校生20人	青翠高校内
49	保育学科	増田 麗子	2021/12/17	金	講師来校	渋川年金事務所 年金についての講義	保育学科2年生	渋川年金事務所 大竹様		群馬パース大学 福祉専門学校
50	保育学科	都丸千寿子	2021/12/22	水	講師派遣	園内研修	群大附属幼稚園教員	群馬大学教育学部 附属幼稚園	教員3人	群馬大学教育学部 附属幼稚園
51	保育学科	都丸千寿子	2022/1/19	水	講師派遣	群馬県保育研究大会	県内保育関係者	群馬県保育協議会	保育関係者に YouTube配信	県庁32F
52	保育学科	剣持佐智子	2022/1/20	木	講師派遣	群馬県保育研究大会	県内保育関係者	群馬県保育協議会	保育関係者に YouTube配信	県庁32F
53	保育学科	小林由井子	2022/1/20	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	北橋幼稚園
54	保育学科	小林由井子	2022/1/25	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
55	保育学科	井上 暁子	2022/1/28	金	講師派遣	群馬県総合教育センター研修講座 (園内研修)	赤城幼稚園保護者	渋川市立赤城幼稚園	30名	渋川市立赤城幼稚園
56	保育学科	都丸千寿子	2022/2/4	金	講師派遣	前橋市幼保小連絡協議会	前橋市内の保育園、 幼稚園、こども園、小 学校、特別支援学校 職員	前橋市幼児教育 センター	関係者にZoom配信	前橋市総合教育 プラザ

2021年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
57	保育学科	都丸千寿子	2022/2/9	水	学校評議員会	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名、園長他	北橋幼稚園
58	保育学科	小林由井子	2022/2/9	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	東吾妻町あづまこども園
59	保育学科	小林由井子	2022/2/10	木	子ども・子育て会議	渋川市福祉部こども課少子化対策係	渋川市	渋川市	委員25名・市職員5名	渋川市役所会議室
60	保育学科	小林由井子	2022/2/18	金	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県	新任保育教諭対象	北橋幼稚園
61	保育学科	小林由井子	2022/2/25	金	学校評議員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員4名、園長他	こもち幼稚園